

尾佐竹猛

尾佐竹

司法官、

維新史・

明治文化史研究家、

法學博士。明

治十二年一月二十日石川縣生れ、

昭和二十一年十月一日歿（七八〇）元

四）。筆名不破志要、倭進適散史、千田、千田世成、千田生、名那、

名那生、名那繁次、大内松太郎、尾佐竹、尾佐竹雨花、山田唯比子、

活殺子、相良、相良武雄、相良生、無用學博士、縦横子、若木鳥之、

落木成文、雨、雨花、雨花子、雨花生、雨華、露木止文、高山長水等。

明治二十一年明治法律學校卒。各地で判事歴任後、大正十二年大審院

判事、昭和十七年同檢事。この間（昭和）維新史・明治文化史研究を先驅け、

明治大學教授、明治文化研究会會長等を務めた。

著書『維新前後に於ける支那思想（帝國議會史前史）』（大正十四年十一月）

『文化生活研究会』、『明治成辰』（合著・文明協會編、昭和二十一年十

一月十五日文明協會。文明協會創立二十周年記念）、『假名論と口一

々字論（明治文化と口一々字）』（佐伯功介合著、昭和四年五月二十

日日本ローマ字會「日本ローマ字會パンフレット」）、明治『明治獄史疑獄難

獄』（昭和四年六月二十日一元社）、『夷狄の國へ―幕末遣外使節物

語』（昭和四年七月五日萬里閣書房）、『變つた實話』（合著・朝日

新聞社編、昭和四年八月二十日東京朝日新聞發行所）、『日本憲政史』

（昭和五年六月五日日本評論社「現代政治學全集」）、『我、福澤先

生』（合著・福澤先生研究会編、昭和六年四月十五日丸善株式會社）、

『賭博と掏摸の研究』（昭和八年四月十五日總業社書店新進社書店）、『文武杭

争史』（合著・雄山閣編輯局編、昭和八年六月十日雄山閣）、『明治

文化研究論叢』（合著・明治文化研究会編、昭和九年四月七日一元

社）、『明治文化叢説』（昭和九年七月二十日學藝社）、『掏摸・賭

博』(昭和九年十月二十五日犯罪科書刊行會)、『刑罪珍重易解題』  
 (昭和九年十一月一日犯罪科書刊行會)、『明治維新の全貌』(合  
 著・早稻田大學講演部編、昭和十年四月一日早稻田大學出版部)、『羅  
 新史叢說』(昭和十年十月四日學而書院)、『法政秘聞』(昭和十  
 一年九月二十日育生社)、『自獨文化講演集・第十一輯』(合著、昭和  
 十二年五月二十日自獨文化協會)、『現代日本史研究』(合著、昭和  
 十二年十月五日二重書房)、『日本憲政史大綱』全二冊(上卷・昭和  
 十三年十一月二十五日、下卷・十四年一月二十五日日本評論社)、『新  
 聞雜誌  
 創始者柳河春』(昭和十五年十月十六日高山書院「高山叢書」)、  
 『勤皇精神と學』(合著・東京新聞社編、昭和十八年八月二十一日  
 建設社)、『明治の行幸』(昭和十九年二月十八日東興社)、『明治  
 文化の新研究』(編、昭和十九年二月二十日亞細亞書房)、『幕末外  
 交秘史考』(昭和十九年七月二十日邦光堂書店)、『露國官人十  
 大年遭難湖南  
 事件』(昭和二十六年六月十五日岩波書店「岩波新書」)等。

